

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	天草地域医療センター外来棟	階数	地上4F
建設地	熊本県天草市亀場町大字食場字地	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年6月8日
敷地面積	14,105 m ²	作成者	株式会社 古川・桜樹会建築事
建築面積	1,602 m ²	確認日	2012年6月18日
延床面積	3,876 m ²	確認者	〇〇〇



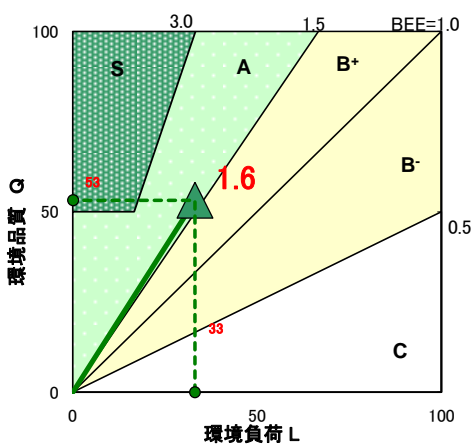
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.6

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

59%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

89

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

95.0

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

83.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

89.2

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	天草地域医療センター外来棟	階数	地上4F
建設地	熊本県天草市亀場町大字食場字地	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年6月8日
敷地面積	14,105 m ²	作成者	株式会社 古川・桜樹会建築事
建築面積	1,602 m ²	確認日	2012年6月18日
延床面積	3,876 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	59%
③上記+②以外の	59%
④上記+オフサイト手法	59%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 89

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 評価点 = 95	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 84
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 83	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 89

重点事項の評価 (温室効果ガス)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
天草地域医療センター外来棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境								3.0
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-			
2 設備騒音対策								
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	-	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-			
4 ゾーン別制御性	細かな空調ゾーニングの設置、ゾーン別に自由な冷暖房の選択	3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御	空調システムに除湿機能	3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.6	0.25	-	-			2.6
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-			
1 昼光率		1.0	0.60	-	-			
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	エントランスホール吹き抜けにトブライトの設置	3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-			
3 映り込み対策								
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-			3.7
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レンオネラ対策								
4.2 換気		4.0	0.30	-	-			
1 換気量	換気能力が建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上に有する	5.0	0.50	-	-			
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-			
4 給気計画								
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御	喫煙ブースを設け、非喫煙者が煙に曝されないように対応している	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		3.3	0.40	-	-			3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		3.0	1.00	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性に優れた設計	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	各フロアへの清掃用流しの設置	3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性		4.0	0.31	-	-			4.0
2.1 耐震・免震		4.6	0.48	-	-			
1 耐震性	保有水平耐力の安全余裕率が1.5倍以上	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁仕上げにタイルを使用	5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.8	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、配管系統の区分	4.0	0.20		
3	電気設備	非常用発電設置の設置、浸水対策あり	4.0	0.20		
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、浸水対策あり	4.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.5	0.29		3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		
1	階高のゆとり	階高は4.0m、	5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ率が0.126	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		
3.3 設備の更新性			3.1	0.38		
1	空調配管の更新性	十分な天井スペースの確保	3.0	0.17		
2	給排水管の更新性	十分な天井スペースの確保やピットの設置	4.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性	OAフロアの設置	3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースがあり	3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		2.7
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30		2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上	歩行者専用の屋根付き外部廊下の設置	3.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		3.6
LR1 エネルギー			-	0.40		3.7
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20		3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	エントランスホールの吹き抜けにトップライトの設置	4.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化			5.0	0.30		5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=51.8%	5.0			
集合住宅の評価			3.0			
4 効率的運用			3.0	0.20		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		3.7
1 水資源保護			3.4	0.15		3.4
1.1	節水	節水型衛生器具の採用	4.0	0.40		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63		3.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイル、ビニール床材、建築石材	5.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	構造種別が鉄骨としている	5.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.22		3.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質のない材料の使用	4.0	0.32		
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68		
1	消火剤	ハロンの不使用	4.0	0.33		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		
3	冷媒		3.0	0.33		
LR3 敷地外環境			-	0.30		3.5
1 地球温暖化への配慮		敷地内の緑化対策	4.6	0.33		4.6
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		
3	交通負荷抑制	敷地内の乗降スペースがあり	4.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみ量の推計、分別回収と集団回収、ごみ減量対策	4.0	0.25		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	0.33		
2	振動		3.0	0.33		
3	悪臭		3.0	0.33		
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		
2	砂塵の抑制		3.0	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・利用しやすく分かりやすい施設。

Q1 室内環境

- ・エントランスホールに吹き抜けと採光トップライトを設け、自然光を積極的に取り込む計画。
- ・内装材はF☆☆☆☆の材料を使用する。
- ・衛生機器や手摺など、利用者が使いやすく安全なバリアフリーデザイン。
- ・十分な天井高を設け室内の圧迫感を低減。
- ・十分な換気機能が有する。

Q2 サービス性能

- ・平面ではシンプルな動線計画として、断面では吹き抜けを設置して、利用者に分かりやすく効率的平面計画。
- ・雨天時でも濡れることな車の乗降が可能な十分な屋根を有したポーチの計画。
- ・バリアフリー計画。
- ・各階に案内板を設置。
- ・設備に対して適切な更新性が有する。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・庇、外部廊下等の空間を設け、都市空間の活動上のアニメティ向上に貢献。
- ・周辺の景観になじむ形態や色彩としている。

LR1 エネルギー

- ・吹き抜けを有するエントランスホールに天井トップライトを設置、自然採光、換気および排煙に配慮している。
- ・高断熱・複層ガラスによる冷暖房負荷の低減。
- ・高効率設備機器、LED照明器具の採用。

LR2 資源・マテリアル

- ・省水型機器の導入。
- ・リサイクル可能な仕上げ材を選定している。
- ・汚染物質含有材料使用の回避

LR3 敷地外環境

- ・外壁は周辺環境へ配慮し、圧迫感を抑えた明るく清潔感のある色彩デザイン。
- ・地下浸透舗装の採用
- ・駐車スペースの設置

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 天草地域医療センター外来棟

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		89.1
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				95	0.40	38.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				83.7	0.20	16.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				89.2	0.20	17.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20: スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数